

来週の「売り物記事」はこれ



2018年5月18日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

空襲被害 未完の補償

20日(日)



ストーリー

第二次世界大戦下、米軍の空襲でおよそ50万人が亡くなりました。敗戦後、日本政府は軍人・軍属には補償をし、民間人にはしませんでした。東京と大阪、名古屋大空襲の被害者たちは司法に救済を求めましたが、すべて敗訴が確定しています。このため、高齢の被害者たちが、立法による解決のために活動しています。戦争は国策です。その被害の補償は、同じ人間として平等になされるべきではないのか——。敗戦から73年。政府の負の遺産を背負わされ、今も闘い続ける人たちを追いました。



筆者は東京学芸部の栗原俊雄記者です。

松田喬和の「ずばり聞きます」

立憲民主党 辻本清美 国対委員長

夕刊特集ワイド 21日(月)



安倍晋三内閣では公文書改ざんや財務事務次官のセクハラ、さらには閣僚の失言といった不祥事が相次いでいます。

ところが、野党に国民の支持が集まっている状況ではありません。

このまま「安倍1強」に対峙(たいじ)する受け皿は作れないままなのでしょうか。

野党結集の鍵を握る立憲民主党の辻本清美・国対委員長＝写真＝に、松田喬和・毎日新聞特別顧問が聞きました。

企画「高校野球 新世紀」第6部

社会情勢の変化と高校野球

スポーツ面 23日(水)から全5回

高校野球界の底流を掘り下げる年間企画「高校野球 新世紀」。第6部では変化する社会情勢との関わりを取り上げます。行きすぎた部活動を防ぐためにスポーツ庁が策定したガイドラインと実情とのバランスに悩む学校や、金属バットの打撃音への周辺住民の苦情により練習内容を変えた住宅街の学校など、現場で起きているさまざまな問題を提起するとともに、その中で工夫している学校に焦点を当てます。



児童養護施設内の子ども間の性暴力 医療・福祉面 23日(水)



親元から離れて子どもたちが暮らす児童養護施設内の性暴力について、厚生労働省が初の実態調査に乗り出します。子ども間のこうした事件は表面化しにくく、報告や公表を規定した制度もありません。厚労省が調査に踏み切る背景には、娘が被害に遭った三重県の母親が起こした裁判がありました。被害者の思いや、防止に向けた施設側の取り組みなどを紹介します。

国家公務員の不祥事

モラル崩壊の背景には何があるのか

オピニオン面 [論点] 23日(水)

公文書を国会答弁と合うように改ざんした財務省。記録があるのに「ない」と強弁していた防衛省。挙句の果てに、財務省の事務方トップがセクハラ問題で事実上の引責辞任に追い込まれました。「優秀」とされてきた日本の国家公務員のモラルはどこへ行ったのでしょうか。耳を疑うような不祥事がこのところ相次いでいる背景には、いったい何があるのでしょうか。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

不審者寄せ付けない遊び場

くらしナビ面 25日(金)



子どもが襲われ、命を落とす痛ましい事件が後を絶ちません。しかし、「大声を出す」「防犯ブザーを鳴らす」など、大人と向き合ってから防御策を子どもに強いるのは酷かもしれません。学校や通学路、公園では、危険人物の存在を前提に、彼らを近寄りにくくさせ、犯罪をあきらめさせるような環境を整備する必要があります。海外の事例を中心に紹介します。

住 ボルダリングの壁

くらしナビ面 22日(火)

突起物を取り付けた高さ3～5mの壁を登るボルダリング。この競技を含む「スポーツクライミング」が、2020年東京五輪で初めて正式種目になります。ボルダリングは、複数の課題(コース)を制限時間内に、いかに多く、いかに少ないトライ数で登るかを競います。最近では、専用の壁を自宅に設置して楽しむ人も出てきました。その魅力を探ります。



マイウエー わたしの生き方 講談師・神田松之丞さん

週刊 サラダぼうる 21日(月)



小学生の時に父が自殺。遺書には「いろいろな方にご迷惑をおかけしました」という震えた文字が。以来、笑うことに罪悪感をもつようになったと神田さん=写真=は言います。そんな時に出会ったのが落語や講談。登場人物は失敗ばかりで、「自分もうまくいっていなかったから、人生の教科書のように心を慰めてくれた」そうです。神田さんの芸ににじむ人生の影とは。